

一〇二三年度 早稲田大学大学院文学研究科 入学試験問題
 【博士後期課程】 一般外国語 日本語 ※解答は別紙(縦書)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ヨーロッパを初めて見物して何か「珍しい」という印象を受けたかと聞かれると、自分は明白に「(1)イナ」と答えるほかはない。そこには深い感動を与えるいろいろなものがあつたが、しかし「珍しい」という点では、途中で見たアラビアやエジプトの沙漠の(2)足下にも及ぶものがなかった。ところで旅行をおえて、日本へ帰つて来て見ると、この「日本」というものがアラビアの沙漠にも劣らないほど珍しい、全く世界的に珍しいものであることを、痛切に感ぜざるを得なかったのである。どういふふうに珍しかったか、なぜ珍しかったか、それをここに問題にしよう。

珍しいということの本来の意義は「世の常でないこと」、「稀有なこと」である。それは「世の常に通例にあること」を前提とし、その地盤において、「常でなく通例でない」すなわち「まれである」という有り方として現われてくるのである。常に通例にある有り方がすでに何らかの意味において理解せられていなければ珍しさが見いだされないとともに、またすでに理解せられている通例の有り方のままに有るものにおいても珍しさは見いだされない。

だから山野の通例の有り方を草木に(3)オオわれるということにおいて理解していたものにとつては、沙漠は極度にXものであつた。とともに洋風建築の通例の有り方を日本の都会における洋風建築から理解していたものにとつては、その有り方の通例にあるヨーロッパの都会がYものでなかった。これは地理の教科書で沙漠に草木のないことを教わつてもそれが沙漠の有り方についての理解とならず、かえつて日本の都会の洋風建築がヨーロッパの都会の有り方についての具体的な理解を与えていたということと言いかえたにほかならぬ。

ところで、ヨーロッパから日本へ帰つて(4)それに異常な珍しさを感じるということは、(4)永年その中に住んで見慣れていた日本が、これまで通例の有り方として理解せられていたことと異なつた有り方を持つに至つたか、あるいは日本の方がそのままであるのにその通例の有り方として理解していたことが自分の側においていつのまにか変わつて来たのか、いずれかでなくてはならぬ。あるいはまた、そのいずれかではなくしてその双方であるかも知れぬ。というのは、年来その中に住んで見慣れていたその通例の有り方がそのままであるとともに、その底にこれまで理解せられていなかった一層根本的な有り方が露呈され、それが在来理解せられていた通例な有り方に対して、通例でないこと、まれであることとして(5)つかまれたのであるかも知れぬ。

(5)手近な例でそれを明らかにしよう。我々は日常日本において自動車や電車を見慣れている。それは西洋から輸入されるいは西洋のそれを(6)モして作られたものであるが、しかし我々日本人がそれらのものにおいて珍しさを感じるということは、今日において通例はないであらう。従つてヨーロッパへ渡つてそこで自動車や電車に珍しさを感じるなどということも全然あり得ない。むしろ我々はタクシーのきたなさや電車の小ささに驚くほどである。どの都会の街上電車でも、窓ガラスの優良であることを除いては、我々が日本で見慣れている街上電車よりもはるかに「貧弱」な感じしか与えない。地下鉄道の電車でも、省線の電車に較べればはるかに軽小な感じである。その寸法や重量が実際に小さく軽いのかどうかは、ここでは問題でない。とにかく我々はそう「感ずる」のである。そうしてそこにはもちろん「珍しさ」の感じは含まれておらぬ。

ところで日本へ帰つて街上の自動車・電車を見る。それはまるで麦畑の中を猪が暴れまわるような感じである。電車が突き進んで来るときには、左右の家並みはちょうど大名行列に対して(7)ドゲザしている平民どものように、いくじなくへいつくばっている。電車の方が一階の軒よりも高く、また一軒の(8)間口よりも大きく、そうしてもしそれが暴れ込めば家の方がめちやめちやにこわれるだろうと思われるように堅固で、しかもそれが木造家屋の力を圧倒し去るような勢いをもつて突き進んで来る。それが(9)右のような印象を与えるのは当然であらう。電車がそばにくれば向こう側の家は見えなくなつて電車の屋根の上に空が見える。背の低い自動車でさえも時には同じように偉大なものとして現われてくる。ある小路では自動車が運河にはいった鯨のように横たわり、そうしてそれが実際に一軒の家の間口よりも大きく軒よりも高いのである。ヨーロッパの町々では、家に比べてはるかに小さいこれらの交通機具が、いかにも交通のための「道具」らしく、従つて町や人間に服従した家来らしく、そのものの持つ意味にぴつたりと合つた感じをしか与えない。しかるに日本の町では、これらの「道具」「家来」であるものが人を押し家を押し町を押しさばり回っている。自動車や電車そのものが(10)ほぼ同じ形同じ大きさであるだけに、この同じものが家や町との間に持つこの奇妙な釣り合い、というよりも不釣り合いが実にいちじるしい珍しさを印象するのである。我々は前にはその不釣り合いを感じなかった。そうしてヨーロッパに渡つてそれを本来の釣り合いにおいてながめたときにも、ただそれらのものが小さく感じられたというだけで、そこに(11)根本的な釣り合いの変化が起こつたことには気づかなかつた。これは見慣れたものにおいて不釣り合いを自覚していなかつたとともにすでにその本来の釣り合いがあるべき釣り合いとして理解していたことを示すのである。しかるに今この不釣り合いが珍しさとして見いだされたということは、前にはあるべき釣り合いを理解していながらもそれが目前に欠けている

ことを理解していなかったこと、それが今や本来の釣り合いの地盤の上にその明らかな欠乏の様態として見いだされたことを示すにほかならぬであろう。

(和辻哲郎『風土―人間学的考察―』(一九三五)による)

注 街上海車 路面電車。

省線 もと鉄道省(のちの運輸省、国土交通省)の経営していた鉄道路線。

いくじ ものごとに立ち向かおうとする気力。

へいつくばる 平伏すること。平身低頭すること。

小路 幅のせまい町中の道路。

のさばる 威張って思いのままにふるまうこと。

問一 傍線部(2) (4) (5) (8)の漢字の読みを平仮名(現代かなづかい)で解答用紙の所定の欄に記せ。

問二 傍線部(1) (3) (6) (7)の片仮名の部分を漢字に直し解答用紙の所定の欄に記せ。

問三 空欄

X

 と

Y

 には同じ語がはいる。その語を問題文中から抜き出して解答用紙の所定の欄に記せ。

問四 傍線部(a) 「それ」の指すものはなにか。問題文中から抜き出して解答用紙の所定の欄に記せ。

問五 傍線部(b) 「つかまれた」とあるが、何が「つかまれた」のか。問題文中から抜き出して解答用紙の所定の欄に記せ(十
字以内)。

問六 傍線部(c) 「右のような印象」とはどのようなことか。問題文中から最も適切な部分を抜き出して解答用紙の所定の欄に
記せ(二十字以内)。

問七 傍線部(d) 「ほぼ同じ形同じ大きさであるだけに」とあるが、何と何が同じ(形・大きさ)だということか。「AとB」と
いう形式で解答用紙の所定の欄に記せ(二十五字以内)。

問八 傍線部(e) 「根本的な釣り合いの変化」とあるが、それはどういうことか。解答用紙の所定の欄に説明せよ(百字以内)。

[illegible]

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——